

NRU 国労せんだい

N0. 2476
2006年11月27日
発行責任者 太田 博二
編集責任者 武田 昌仙

各支部で定期大会

◆山形と仙総支部大会から◆

9月に開催された第72回定期地方大会を受け、各県各支部で定期大会が開催されている。既に仙台総合車両所支部は10月14日に、宮城県支部は10月29日(2474号掲載)に大会を終了している。今号では先に大会を終えた仙総支部と11月11日に大会を終了した山形県支部の大会を報告する。

第二十二回山形県支部大会より

◆原田委員長挨拶から 国内外情勢 ブッシュの嘘で始まった

イラク戦争は多くの一般市民が殺され、その数は十万人以上とされている。

安倍内閣はタカ派の危険内閣。閣僚や自民党の役員が日本の「核保有容認」発言は以前であれば罷免。今の日本の危機を表している。

教育基本法問題

教育基本法改悪の国会の議論は日教組攻撃。いじめによる自殺、少人数学級の放置、日の丸・君が代を押し付ける文部科学省と教育委員会こそ批判されるべき。憲法改悪につながる教育基



挨拶する原田委員長

本法改悪と国民投票法案阻止の闘いに全力を。

JR不採用問題について

全ての当事者が参加した3つの中央集会を成功。9月14日の4団体による

「JRの不採用事件の早期解決に関する申し入れ」と「解決にあたっての具体的要求」の鉄道運輸機構への提出。本部は「JR不採用事件の政治解決をめざす緊急アピール」を決定し、「新たな訴訟」についての

手続きを行うことを決定。一括和解について

11月6日、中労委で和解が成立し、JR東日本との争いは全て終結となった。

しかし、内容的には不満であり、今後も差別根絶の闘いは続く。一方でこの和解は他労組組合員も注目しており、組織拡大に結びつける取り組みが必要。

安全問題について

羽越線の脱線事故は「風の怖さ」を承知していたJRがその対策を取ってこなかったことが原因。責任を取ると言った会社は松田会長が相談役に、大塚社長が会長という無責任な責任の取り方。JR東日本はその責任を厳しく追及されなければならぬ。

3月14日から15日にかけて奥羽本線の庭坂〜米

訃報

河村 恵司さん逝く

仙台駅連合分会執行委員長である河村恵司氏が11月10日19時22分に亡くなった。河村氏は今年6月に急性骨髄性白血病と診断され、抗癌治療による闘病生活を送っていた。享年50歳。河村氏は仙台地方

本部の青年部長を務めるなど、青年期から労働運動に力を注ぎ、現在も仙台駅連の分会長として活躍していた。歯切れの良い話術と明るい性格は誰からも好かれ、今後もより一層の活躍が期待されていただけに、「ご家族や関係者は勿論のこと、地方本部としても残念の極みである。心よりご冥福をお祈りしたい

仙台総合車両所支部 第十九回定期大会

国労仙台総合車両所支部

は10月14日、定期大会を開催し、「JR不採用問題」を始め「安全問題」「安全・安定輸送の確立」「平和憲法の堅持と教育基本法改正阻止」「来春の政治闘争での革新勢力の拡大」など、向こう一年間の運動方針が承認された。

執行部を代表して挨拶に立った庄司委員長はその中で「今年は部外委託の拡大のさなか、協力社員の労災死亡事故が発生するなど我々の闘いの課題も鮮明になった」と述べ「安全総点検運動」「仕事総点検運動」の更なる充実、強化に向けての議論を要請した。

原子書記長集約

JR不採用問題の解決

支部の物販の取り組みを他支部分会に拡大を。

支部として国会議員要請行動に参加してきた。

反合理化の闘い

労災死亡事故は自分達の問題として取組む。安心して働き続けられる職場を目指し、業務・労安企画部合同で取り組みを。

同 江刺家逸郎

同 江刺家逸郎

同 江刺家逸郎

同 江刺家逸郎

同 江刺家逸郎

同 江刺家逸郎

も青年の加入を。また全体の認識の統一を。

07春闘

行動日を設定して取組む。また新しい取り組みも考えたい。

平和と民主主義

平和を守る勢力の拡大に全力を尽くす。

2006年度執行体制

執行委員長 庄司 修

執行副委員長 阿部 春雄

書記長 江刺家逸郎

執行委員 原子 清貴

同 阿部 昭治

同 及川 正昭

同 鈴木 英弘

参加者の発言から

沢間の新型MTT回送は、国労の中止要求にもかかわらず猛吹雪の中強行し、制限速度45kmのところをブレーキの制御が効かず、80kmのスピードで滑走した。仙台支社は自らの責任逃れと事故隠しに終始した。

国労の闘う課題は多いが、全力を挙げて取り組む中から再びJR内外の労働運動の牽引車となるよう決意を固め合おう。

発言1

広域出向者の交流会に行ってきた。秋田に帰れず延長している実態。1名はあきらめて山形に希望を出した。個々人の状況を把握し、会社に迫り、目に見える、他労組のやらない運動を。香坂さんの死がショック。ガン保険の大切さ。役員が体を壊さないように、一人ひとりが協力していくことが必要。県内で、職協としてのつながり作りを。

発言2

乗務職場、特に車掌に関して要員運用が非常に厳しい状況。今日も朝の人身事故で若い車掌が自分の行路を終えて次勤務確認終了後に村山米沢間一往復させられて

いる。和解し、お互いが歩み寄ったために会社から何でもいように使われていくのか？見習い不十分でも早く一本にして出してやるという感じ。若い人は見入り(休日労働で金が入る)の関係から何でも出て行く。「人がいなくなるんだよ」ということを教えている(東労組は、そのしたことを教えていない)

発言3

出向・配転・バツジ等の和解について、会社からの謝罪がない。なぜ求めなかったのか？県内にも当事者がいる。この人たちへの説明も重要である。試験について、合格率がアップした」といつこのみにこだわら過ぎていないか。何度も受験している人、年配者の問題などにたいして公平、公正ということになっていない。助役試験を受けている人もいる、ということについて国労としてどう捉えているのか？合格者が増えてくればそういう状況も増えてくる。地本として受験者の率を上げると言っているが、本人の意思も尊重を。個面でフランチャイズ異動について聞かれた。地域間異動での本人希望無視や差別など様々あった中で、もっと地域間異動について検証してからフランチャイズに対応すべきでなかったか。

発言4

賞賜共闘で、8月31日から9月3日まで音威子府に交流団として行った。支部のカンパ物販にお礼する。20名参加中14名が初参加でうして20年も闘ってこれたのか・を伝えたく、新しい人を多く募った。闘争団に40万円のカンパ。亡くなった石原さんの家族への激励カンパ支援米など。9月に全国各地区労交流会(長崎)に参加。憲法改正に賛成と言う人に

「憲法を知っているか」と聞くのと「知らない」と答える。知っている人は憲法改正に反対。憲法を知ってもらうことも必要。

現在のJRに比べると、「良い線路を作る」というのはもう死語になっていると思う。良い線路を作るためには、外に出した仕事を戻すことが必要。来年の統一地方選・我妻選対はたいへん貧乏な選対なのでそういつことも含めて御支援を。

発言5

3系統に分かれている分会。乗務職場の勤務の問題はエリアでも職協中心に対策が始まってきている。分会内では班ごとの集会ができていないかと言え、そうも言えない。退職を祝う会などレク的なものは開催しているが、分会として集まれる場合は忘年会や大会、激励会などのみ。職場でも良いから集まりを作っていきたい。

石垣元委員長退職激励会

長い間お疲れ様でした

11月10日、宮城県支部は、石垣正民宮城県支部元委員長の退職激励会をサンルート仙台において開催し、長年の労働運動に対する真摯な取組みに対し労った。

石垣氏は01年から宮城県支部の執行委員長を務めていたが、昨年からは体調を崩し、今年2月に退職をした。

会場には各支部の代表者や宮城



県支部傘下の分会代表者、また現在別の仕事や道を歩んでいる仲間も多数激励に訪れ、長年の労苦に対し労いの言葉を送った。

激励会の開催に対し、挨拶に立った石垣元委員長は「体調を崩し、早期退職を決定せざるを得なかったことに対しては本当に悔いが残る。しかしこれまでの労働運動の

人生、自分の生き方には何の悔いもない。自分では決して器用な人間ではなかったが、皆さんに支えられてここまで闘い続けることが出来た。これからも皆さんとともに歩み続けたい」と自身の運動を振り返り、決意も新たに御礼の言葉を述べた。

また来賓として参加した佐藤昭一氏(大崎市議)は、塩釜港闘争時の話に触れ「封印」されていた数々の秘話を披露するなど、会場は終始和やかな雰囲気のまま閉会となった。



国労宮城県支部主催「石垣正民」さんご苦勞様でした 共に「この社会と闘い続けよう」激励交流会

2006年度執行体制

- 執行委員長 原田好太郎
- 執行副委員長 園辺 誠幸
- 書記長 伊藤 雅
- 執行委員 加藤 幹男
- 執行委員 木村 勝則
- 執行委員 佐藤 洋介
- 執行委員 鎌田 仁
- 会計監査 東海林 茂
- 会計監査 難波 新一